

『実践 有用微生物培養のイロハ』正誤表

この度は『実践 有用微生物培養のイロハ』をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。

本書の内容に以下の訂正箇所がございましたので、

訂正させていただきますとともに、深くお詫び申し上げます。

箇所	誤	正
p.13 第1章 1.4.3 下から3行目	す(1)～(9)は	す((1)～(9))は
p.18 第1章 1.6 上から13行目	清浄な空気が奥から手前に吹き出すタイプと、	清浄な空気を奥から手前に吹き出すタイプと、
p.23 第1章 1.8.1 上から9行目	培地に植菌してもよいでしょう。	培地に入れて植菌してもよいでしょう。
p.24 第1章 1.8.3 上から18行目	マイクロベッターは、	マイクロベッターは、
p.24 第1章 1.8.3 下から5行目	押し込むようします。	押し込むようにします。
p.25 第1章1.8.3 下から6行目	ノーズによって温められて	チップホルダーによって温められて
p.40 第2章 図2-3-1 キャプション	2種の <i>Lentinul deodes</i> の増殖とラッカーゼ生産に及ぼす酵母エキスの影響	2種の <i>Lentinul edodes</i> の増殖とラッカーゼ生産に及ぼす酵母エキスの影響
p.56 第3章 脚注 ※24	硫酸塩なら濃硫酸を、塩化物なら濃塩基を1滴添加する。	硫酸塩なら1～3Mの硫酸を、塩化物なら1～3Mの塩基を1滴添加する。
p.59 第3章 脚注 ※33 2行目	熱で変形するため、禁忌であることも知っておく。	熱で変形するため、禁忌であることも知っておこう。
p.70 第3章 3.9.3 下から6行目	遠心缶	遠心管
p.74 第3章 3.10.2 一番下の行	シャーレの半分～2/3ぐらいまで	シャーレの底面の半分～2/3ぐらいまで
p.81 第3章 3.11.1 5～6行目	嫌気状態を継続させたままで、	嫌気状態を継続したままで、
p.104 第4章 4.2.5 2行目	細胞では $10^0 \sim 5 \times 10^3$ cells・	細胞では $10^5 \sim 5 \times 10^8$ cells・
p.118 第4章 図4-5-2 キャプション	ガルバニ式酸素センサー	ガルバニ式酸素センサー基本回路
p.118 第4章 4.5.3 下から7行目	ステンレス製電解槽(⑧)の内壁に鉛(④⑨)が張りつけてあり、	ステンレス製電解槽(⑧)の内壁に鉛(⑨)が張りつけてあり、
p.119 第4章 4.5.3 上から5行目	均圧孔をなくした密閉式センサーも開発されています。	均圧孔をなくした密閉式センサーも販売されています。
p.119 第4章 4.5.4 上から12行目	$0.1\text{mg}\cdot\text{O}_2\cdot\text{L}^{-1}$ 、 $0.01\text{mg}\cdot\text{O}_2\cdot\text{L}^{-1}$ の測定も可能なセンサーも製造できますが、	一般的に測定下限は $0.1\text{mg}\cdot\text{O}_2\cdot\text{L}^{-1}$ です。 $0.01\text{mg}\cdot\text{O}_2\cdot\text{L}^{-1}$ の測定が可能なセンサーも製造できますが、
p.121 第4章 表4-5-2 左側4行目	蒸気滅菌により出力が変動しない。従って毎回校正する必要がない	蒸気滅菌によりゼロ点出力が変動しない。従って毎回ゼロ点校正する必要がない
p.121 第4章 表4-5-2 右側4行目	蒸気滅菌により出力が変動する。従って滅菌ごとに校正する	蒸気滅菌によりゼロ点出力が変動する
p.121 第4章 4.5.7 下から2行目	直径6mm程度のパイプの一方の端を	直径6mm程度のステンレスパイプの一方の端を
p.130 第4章 4.7.1 上から17～18行目	植菌してからだいたいどれぐらいの時間が経過したかを予測	植菌してからだいたいどれぐらいの時間が経過してからかを予測
p.148 第5章 5.5.3 下から8行目	[3.9.7]で説明した手順中の	[3.10.5]で説明した手順中の
p.155 第6章 6.1.2 上から11行目	問1 A $\frac{400\text{個}}{2\text{人}\times 10\text{日}} = 2\frac{\text{個}}{\text{人}\cdot\text{日}}$ B $\frac{450\text{個}}{10\text{人}\times 15\text{日}} = 2\frac{\text{個}}{\text{人}\cdot\text{日}}$ 問2 A $\frac{10\text{kg}}{5\text{人}\times 10\text{日}} = 0.2\frac{\text{kg}}{\text{人}\cdot\text{日}}$ B $\frac{6\text{個}}{3\text{人}\times 5\text{日}} = 0.4\frac{\text{kg}}{\text{人}\cdot\text{日}}$ 問3 A $\frac{100\text{人}}{2\text{万人}\times 5\text{年}} = 20\frac{\text{個}}{\text{万人}\cdot\text{日}}$ B $\frac{240\text{人}}{2\text{万人}\times 3\text{年}} = 40\frac{\text{人}}{\text{万人}\cdot\text{年}}$	問1 A $\frac{400\text{個}}{20\text{人}\times 10\text{日}} = 2\frac{\text{個}}{\text{人}\cdot\text{日}}$ B $\frac{450\text{個}}{10\text{人}\times 15\text{日}} = 3\frac{\text{個}}{\text{人}\cdot\text{日}}$ 問2 A $\frac{10\text{kg}}{5\text{人}\times 10\text{日}} = 0.2\frac{\text{kg}}{\text{人}\cdot\text{日}}$ B $\frac{6\text{kg}}{3\text{人}\times 5\text{日}} = 0.4\frac{\text{kg}}{\text{人}\cdot\text{日}}$ 問3 A $\frac{100\text{人}}{1\text{万人}\times 5\text{年}} = 20\frac{\text{人}}{\text{万人}\cdot\text{年}}$ B $\frac{240\text{人}}{2\text{万人}\times 3\text{年}} = 40\frac{\text{人}}{\text{万人}\cdot\text{年}}$
p.155 第6章 6.1.2 上から15行目	米の量、赤ちゃんの数を計算していますが、	米の量、子供の数を計算していますが、
p.156 第6章 図6-1-4		
p.157 コラム43 2行目	$\log x^y = y \log x \quad \log_a x = \frac{\log x}{\log a}$	$\log x^y = y \log x \quad \log_a x = \frac{\log x}{\log a}$
p.163 第6章 6.1.8 最終行 式6-1-20	$Y_{x/s} = \frac{\Delta P}{\Delta S} = \frac{\frac{\Delta P}{X \Delta t}}{\frac{\Delta S}{X \Delta t}} = \frac{\rho}{v}$	$Y_{P/S} = \frac{\Delta P}{\Delta S} = \frac{\frac{\Delta P}{X \Delta t}}{\frac{\Delta S}{X \Delta t}} = \frac{\rho}{v}$
p.174 第6章 6.3.3 下から12行目	比増殖速度を高く保てば	比生産速度を高く保てば
p.184 第6章 6.3.5 下から15行目	基質の量は $\Delta S = S_1 - V_1 - S_2 - V_2 + S_F + V_F (t_2 - t_1)$	基質の量は $\Delta S = S_1 - V_1 - S_2 - V_2 + S_F + V_F (t_2 - t_1)$
p.209 第7章 7.3.7 上から5行目	はめ、ねじ込んで密封します。	はめ、蓋をねじ込んで密封します。
p.213 第7章 7.3.10 上から7行目	ジャーファーマンター毎、	ジャーファーマンターごと、
p.220 コラム58 下から2行目	これでヒットしない場合は、学名を種だけに	これでヒットしない場合は、学名を属だけに
p.258 第11章 11.1 下から12行目	(3) その他の制御方法	3) その他の制御方法
p.259 第11章 11.1 下から15行目	変異型プロウロキナーゼ遺伝子 ⁽⁷⁾	変異型プロウロキナーゼ遺伝子 ⁽⁷⁾
p.261 第11章 11.1 上から8～9行目	この時点ではグルコースは	この時点ではグリセロールは
p.263 第11章 11.2.3 下から14行目	にオートクレーブ滅菌して使用前に加えます※19。	にオートクレーブ滅菌して使用前に加えます。
p.263 第11章 11.2.3 下から11行目	悪影響を及ぼすので、保存用の高層培地を作製す	悪影響を及ぼすので、保存用の高層培地※19を作製す
p.263 第11章 脚注 ※19	メーカーの説明書にはこのように記載してあるが、糖源を混ぜてから一緒にオートクレーブしても使用は可能。ただし、培地の色が濃くなるので、小さなコロニーが見にくくなる。	炭酸カルシウムを含む観点培地を試験管に注いでオートクレーブし、傾けずに固化させる。白い炭酸カルシウムがなくなったら植え替えの目安になる。